

青森自治研 会報

第98号 2019.3

青森県地域
自治研の
現状と課題

～第3回～

神田 健策



現在の三村申吾県政は、2003年に知事当選以来、今年2019年6月に四期16年を終えるが、引き続き五期目に挑戦する意向である。三村知事は「ここに生きる喜びを感じながら暮らしていける青森県を目指す」「愚直に挑戦を続ける」と昨年11月28日に立候補表明をした。しかし、青森のリーダーとしてこれまで四期県知事を務めてきたことを踏まえるならば青森県の現状を誇らしく語る事ができるだろうか。

県地域自治研では、本稿の第2回に記したように、2014年9月開催の第14回青森県自治体・地域づくりセミナーにおいて「フォーラム県政の課題」を検討した。その際のテーマは、青森県の「財政」「教育」「農業」「核燃と再生エネルギー」「医療・社会保障」である。この時、セミナーの冒頭に中嶋信・徳島大学名誉教授が「丈夫で長持ちの地域経済をつくる～地域圏切捨での『安倍戦略』転換を～」の題で基調報告を行い、その中で強調したことは、「アベ政治のもとで地方創生が叫ばれるが基本的には地域間格差の拡大が顕著となっている。特に、地方政治にとって中央政治に追随するか否かが大きな分岐点になっている」ということであった。この点において青森県は原発・核燃を国策として受け入れてきたが、特に東日本大震災後、如何なる見直しがあったのか鋭く問われなければならぬ。また、近年、青森県の基本産業である農林漁業関連施策に関して、国の農政が大規模・大資本の参入重視に変わる中で、如何に対応してきたかを深める必要がある。

青森県地域・自治体問題 研究所

〒030-0944

青森市大字筒井字ハツ橋1293-49

tel 090-2276-0477 fax 017-764-3213

URL <http://jichiken.kenrouren.jp/>

emai aomorijichiken@kenrouren.jp

この点において、青森県では岡田知弘京都大学大学院教授・自治体問題研究所理事長の指摘する原発・核燃に追随しない「地域循環型経済」の追求が根本的に求められている。

こうした状況の中で四年前の2015年6月の県知事選挙において、「青森県を変えよう！大竹さんと進む私たちの会」から大竹進氏が立候補し、県政の大転換が目指された。大竹氏は選挙中、次のように訴えた。「停滞・後退している県政にストップを掛け、青森県民の経済と生活全般を、先ず全国レベルに引き上げたい。経済面では、地域型経済の循環を目指すために中小企業への支援を前面に打ち出し、若者の働く場所の確保と最低賃金の引き上げに全力を尽くす。子どもの貧困の連鎖を断ち切るために、児童育成手当条例を制定し、大学進学・授業料等の奨学金制度を借り手の側に立った制度にする。中学生までの医療費無料を県の事業として実施し、親の負担と自治体の負担を軽減する。保育所、病児保育所の拡大で若者の働きやすい環境を整備する。医師会や歯科医師会をはじめ医療関係者と協力・共同して長寿県ナンバーワンも目指していきたい。これらの施策と明らかに矛盾するのが、原発施設である。県内にある全ての原発施設の再稼働、新たな建設に反対」であると主張した。

こうしてみると先の県知事選から四年を経た現在、基本構図は変化してない。三村県政は立候補に当たって2019年度から新たな『次期青森県基本計画』の推進を言明しているが、本当に誇りをもてる青森県づくりのために私たちは今何をすべきなのかが大きな課題となっている。3月24日開催の市民連合あおもり主催の「三村県政を検証する『政策フォーラム』」は県政見直しの絶好の機会となるだろう。以上

「被災3県、自省と巡礼の旅」
(2018年5月15日～26日)
奥村 榮



2012.9.1、撮影

【第3回】 福島から宮城へ、
被災者の思いは…

5月16日、南相馬市から相馬市へ向かう。南相馬市八沢地区、海岸線の近くの道路端に真新しい神社があった。案内看板に「日本財団」が復興の文字と、熊本県立球磨工業高校伝統建築専攻科が作った仮社殿が、寄贈され、現在は本社殿の中にあることが記載されていた。流された地域の復旧が、全国の人々の協力で行われている。海岸を走る道路両側の津波で流された広大な農地には、延々と太陽光パネルが設置されていた。

5月17日、相馬市から宮城県亶理に向かう。道路脇の「過去の津波浸水区域ここまで」の標識に、「ここの地盤は海拔17m」との標示。道路の西側にあるJR常磐線は津波を回避するため高架化がされていた。海岸に平行して走る38号線ぞいに「農地復興作業中」のオレンジ色のノボリが続く。海水に浸かった農地の土の入れ替え作業か？しばらく歩くとまた神社があった。そこに「みんなの鎮守の森植樹祭」の看板。宮司の名前とともに、「神社本庁総長田中恆青、日本財団会長笹川陽平 平成24年6月24日」と書かれている。憲法9条改憲の中心的組織である神社本庁と日本財団が復旧・復興を口実に、被災3県でその影響力を拡大しているのでは。神社の隣に円錐状の「避難丘」(9.0m)があった。この付近は一面の平地(海拔0~1m)で、逃げる場所がないため設置されているようだ。周囲は駐車場で、3方向に階段が付いている。

見渡す限り平地が続く、道路の海岸側に所々このような高台が1~2km置きに設置してある。道路沿いの土地に5mぐらいの盛り土が所々にあり、その上に家がポツリポツリ。道沿いにある寺の住宅の2階まん中ぐらいに「浸水」の表示。木造2階建ての家屋は、1階が柱だけの状態。歩道が一部切れて、道路まで畑が続いている。所有者が了解しない内に区画整理がされたためか？所々に墓の集団、墓が流されてしまったためだろう。空腹はどうか我慢できるが、一番困るのはトイレだ。歩いても歩いてもコンビニがない。街で生活している者にとって、コンビニはどこにでもあるものと思っていたが、海岸線の家もない道路、30km歩いてもない。小便はどうしても我慢できなくなると、草むらや林に立ち入ることができるが、大便となるとそうもいかない。しかも、ここは見渡すかぎり真っ平らな平地。腹がゴロゴロと鳴る、もう我慢の限界を迎えつつあった。前方の工事現場にトイレの表示、そこに「トイレを貸して下さい」と飛び込む！気持ちよく「ああ～いいよ」の返事。間一髪間に合った！！人の情けありがたい。

夕方、亶理荒浜の民宿に着く。津波で民宿を流され、新築してようやく再開したそうだ。宿泊者名簿の宿泊目的の所に「被災3県 巡礼の旅」と書く。翌朝出発時、家族全員が玄関に見送りに出て来てくれ、戸を閉めると、外まで出てくれたおかみさんが、私に向かって深々と礼をする。どのような思いでここまで来たのだろうか…涙が出てきた。(続く)

市民連合あおもり「政策フォーラム」

3月24日に、

「政策フォーラム」 三村県政を検証する！

が開催されます。

2019.3.24

14:00～17:00

青森市民ホール 会議室1

是非お誘いあわせのうえ、

ご参加ください。



2019年6月2日の青森県知事選挙が近づいてきました。青森県は戦後一貫して中央政府に追随する保守県政が続き、特にこの任期16年間は、三村申吾知事によって舵取りが進められてきました。しかし、青森県の様々な指標を全国と比較すると依然として低い位置を占めています。昨年11月末、三村知事は五期目の立候補を声明し、2019年度からは「引き続き、2030年における生活創造社会の実現を目指す『次期青森県基本計画』の推進」を言明しています。内容は「産業・雇用」「安全・安心、健康」「環境」「教育・人づくり」の4分野が中心です。市民連合あおもりは今回、これらを検討するフォーラムを開催します。

3/24 日 青森市民ホール 会議室1
14:00～17:00

—主な報告分野・発表者—

- ① 「産業・雇用」「財政」 神田健策・奥村榮
- ② 「安全・安心、健康」 大竹進
- ③ 「環境」「原発」 谷崎嘉治
- ④ 「教育・人づくり」 一戸義規
- ⑤ 「県議の感想」 古村一雄・諏訪益一
- ⑥ 参加者全体での討論

主催 市民連合
あおもり

Civil Alliance AOMORI
for Peace and Constitutionalism

電話/090-3364-8067(大竹進)
Eメール/otakes@infoaomori.ne.jp

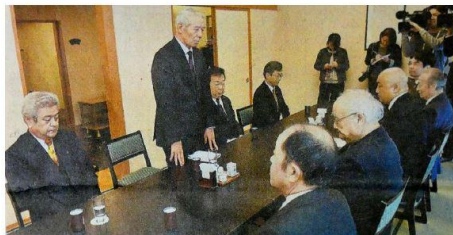
2019.2.23、下記の催しが行われました。参加者は約120名ほど。
YouTubeで、全部の様子をご覧になれます。ぜひ、ご視聴ください。
アドレス <https://youtu.be/p6AEVQKsA5U>

本気です！ アベ政治にかわる新たな選択肢— 市民と野党の共闘フォーラム

2019年は地方選挙、県知事選挙、参議院選挙と続く選挙イヤー。この政治戦で嘘と偽り、強権ふるう安倍政権を退場し追い込む必要があります。

市民連合あおもりは、16年参院選の教訓を発展させ、9条改憲阻止・消費税10%中止など共通政策を掲げて「野党と市民の共闘、候補者一本化」へ、野党各党に働きかけてきました。4野党は昨年末、統一候補実現の協議を開始しました。この流れを魅力ある本気の共闘にしていきたいと、県内の野党と市民連合の代表が一堂に会した「市民と野党の共闘」フォーラムを開催します。

熱い思いをこめて、県民の皆さんの参加を呼びかけます。



参院選で統一候補擁立を目指すことに合意した野党4党県内組織の協議—2018年12月27日、青森市

画像は「東奥日報」1月1日より

日時:2月23日(土)

午後2時～

会場:アピオあおもり

イベントホール

青森市中央3丁目17-1

電話/017-732-1010

報告:市民連合あおもり

野党4党の代表

●参加者の発言も企画予定

主催:市民連合あおもり

Eメール/otakes@infoaomori.ne.jp

電話/090-3364-8067(大竹進)

●参加費は無料です

※編集後記
 今年は、選挙が目白押しです。青森自治研も、誰もが暮らしやすい青森県をめざして、検証と情報提供に努めてまいります。

少し古い新聞記事ですが、総務省の有識者会議が広域連携構想を打ち出したことに対する、各自治体へのアンケート結果が紹介されています。

2040年問題というのと、人口減少で財務的に立ち行かないと、一方的に住民に我慢を強いる世論捜査に思えてなりません。

公務員の数を減らしてどうなるかは、2011年の東日本大震災が教えてくれました。あの時の自治体職員の出陣集が読んでもほしい。

近隣住民のコミュニティを作れるところはいい。しかし、困難なところは個々バラバラとなり、昔の村八分と同じく、復活するようになっていってほしい。

合併問題にしても検証中ですが、切り捨てられていく地域があることは明白だと思います。

青森県の県政検証からも学んでいきたいと思えます。

立柳

「圏域が行政」反対34%

全国自治体 国主導に警戒感

人口減少が進む地域の住民サービスを維持するため、新たな広域連携として、複数の市町村でつくる「圏域」が行政を運営する構想に全国自治体の計34%が反対し、賛成は計30%にとどまったことが23日、共同通信のアンケートで分かった。市町村の独自性が維持できない懸念のほか、国主導で議論が進むことへの警戒感が強い。一方で市町村の人材不足を補うため、連携強化による行政の効率化を期待する声も多い。

賛成30% 効率化期待

この構想は昨年7月、総務省の有識者研究会が2040年ごろの深刻な人口減少を前提として提言。圏域への法的根拠をめぐり、地方自治体の法的責任がどうなるかが争点となっている。調査では「反対」34%、「賛成」30%、「どちらか」と23%、「不明」13%と分かった。



県内は賛成44% 反対29%

賛成理由は「法的根拠や財源を持つことで実効性が期待できる」という声が多い。一方で、市町村の独自性が損なわれることへの懸念も強い。

共同通信の自治体アンケートによると、複数の市町村でつくる「圏域」が行政を運営する構想について、本県では賛成44%、反対29%と分かった。市町村の独自性が損なわれることへの懸念も強い。

圏域が行政を運営する構想への賛否(県内分)

賛成	八戸市、黒石市、五所川原市、西田町、大鰐町、三戸町、南郷町
反対	弘前市、十和田市、むつ市、つがる市、今別町、藤崎町、大鰐町、田舎館村、中泊町、東泊町、風間浦村、五戸町
どちらか	八戸市、黒石市、おいらせ町、大鰐町、三戸町、南郷町
不明	三戸市、野付町、藤田町、六戸町、東通村、佐井村
その他(11)	黒、青森市、平内町、外ヶ浜町、板橋町、野辺地町、七戸町、横沢町、六ヶ所村、陸上町、新郷村

「連携中核都市圏」や「定住自立圏」が活性化につながっているかの受け止め(県内関係市町村分)

つながっている	八戸市、黒石市、五所川原市、西田町、大鰐町、三戸町、南郷町
つながっていない	弘前市、十和田市、三戸市、むつ市、平内町、藤崎町、田舎館村、板橋町、野辺地町、七戸町、六戸町、横沢町、東泊町、六ヶ所村、おいらせ町、大鰐町、佐井村、五戸町、田子町
どちらか	つがる市、野付町、深浦町、中泊町、風間浦村、南部町
つながっていない(1)	新郷村
その他(2)	藤田町、東通村

市町村で「どちらか」といえる「圏域」は弘前市など10市町村で、これは人口減少社会を生き抜くために、自治体の枠を超えて広域的な視点で行政を考える必要がある。「黒石市」人口減少が著しく、持続可能な地域として、人口減少を補う必要が強い。市町村の独自性が損なわれることへの懸念も強い。

「圏域が行政主体」となる能力を待ち合わせているか疑問。「東通村」などが理由として挙げられた。そのほかは「地方制度調査会」などで議論中。現時点で判断できない。「東通村」は「圏域」が行政主体となる能力を待ち合わせているか疑問。「東通村」などが理由として挙げられた。

理由は「観光振興や婚活支援などで中心市を核とした相乗効果が出ていく」「藤崎町」「中心市からの医師派遣や医療連携強化」「大鰐町」など。「つながっていない」といえるのは計7市町村で、理由は「中心地域だけが事業を展開している」「前期で、中心市が中心市として、数

字的な成果は見られていない」「南部町」など。県内で連携中核都市圏は「八戸圏域」「三戸圏域」「五所川原圏域」「秋田県小坂町含む10市町村」「下北圏域」「5市町村」「五所川原圏域」6市町村がある。